

香川縣の産業 (七)

地方經濟事情の部分的研究の一として本號には琴平町に就きての研究を掲ぐ。

琴平町に就いて

木村元治

- 一 琴平町の概要
- 二 琴平町の短所
- 三 交通の發達と賽客の種類
- 四 賽客招致の方法
- 五 土産物
- 六 宣傳と協力

琴平町長福田秀太氏は町政並に町の發展には非常に熱心に一身を賭して之に當られ、其の計畫の樹立に苦心せられ、其の經營に全力を傾注せられて居られる事は、夙に知られて居る事實であつて、我々の常に敬服して居る次第である。過日同町から招かれて商業講演會に出席した際琴平町を一巡して感じた事を次に書き連れて見度いと思ふ。元より我々の實際問題に對して迂濶な事は今更呶々する迄もない事であるが、多少なりとも他山の石となり、參考となれば仕合せである。文中琴平町の人々に對し非禮な事も尠少でない様であるが、特に宏量の町民諸氏の寛恕を乞ひ、こんな風にも見へるかな位の程度で見逃しを御願ひする次第である。尚町長と共に常に同町商工業の發展に努力せられて居る商工會長丸井惣右衛門氏に對しても同様深い敬意を表するものである。

琴平町は香川縣仲多度郡の中央にあつて、國幣中社金刀比羅宮の鎮座する象頭山の東山麓に在る。明治維新前に於ては金毘羅と稱へられて居たが、維新後琴平村と改められ、明治二十三年町村制實施と同時に琴平町と改稱され、面積は〇、二九三万里、東西二十一町、南北十九町半、十九箇の町と十個の橋梁とを有す。永く他町村と合併せず、殊に地方的産業に見るべきものが無いので、人口は増殖されず、若きは遠く出で、家には老弱婦女子の留まるものが多く、此の數年間總人口は約六千に留まつて、一戸數十人を擁する旅館などが有るに不拘、一戸平均四人半位に過ぎない事は同町町長の深く慨して居られる所である。大物主神を正殿に祭り、崇徳天皇を相殿に祀つた琴平神社には、參詣客四時絶へた事なく琴平驛から琴平山の中腹まで六十軒の旅館と百十軒の土産物商が軒を連ねて居るのである。

二

今琴平町の長所、短所を見るに先つて先づ、香川縣人共通の長所短所を考へて見度いと思ふ。幸ひ之に付いて最近香川縣教育會の商議員會から、縣當局へ答申する案が發表されたから之に據つて見る事とする。

香川縣縣民性の短所と認むべき点

- 一、嫉妬心、面縦腹背の念濃厚なること
- 二、共同一致の精神に乏しきこと
- 三、創造性に乏しく、堅忍、持久、進取、向上の念少なきこと
- 四、感情に走り理智的判斷に乏しきこと
- 五、目前の利益に執着し、大局に立脚せざること
- 六、射倖心強く、着實の氣風乏しきこと
- 七、時間觀念薄く、能率増進の念乏しきこと

香川縣々民性の長所と認むべき点

- 一、常識に富み、機智に長ずること
- 二、模倣性に富み、手段に長ずること
- 三、温順にして、親切の風あること
- 四、文學美術の趣味に長ずること
- 五、細心にして節約貯蓄の風あること

以上の各項が果して何の程度迄眞理であるか、確言する事は出來ないのであるが、今假りに此の様

な共通性が縣民諸氏にあるものとして、之を琴平町に當て嵌めて考へて見る。

第一に縣民は嫉妬心が多いと云ふ事に對しては最近琴平電鐵の食堂問題がある。又ケールブル登山鐵道の問題もある。他人の計畫した事を一度は反對して之が成就しない様にする。勿論之は二つとも重大な問題であつて町民の多數の死活に關する事であるから輕々に論ずる事は出來ないが、少くとも有望と思はれる他人の計畫を嫉妬すると云ふ傾向は全然無いとは云はれない。

第二に共同一致の精神に缺けて居るとの事であるが、聞く所によると土産物商同業組合は正札販賣の爲めに特に設けられたのであるが、軒先きに楯圓型の赤い看板と、柱に短冊型の掛看板を出して居るのみで一向に正札勵行の實は上がらず、依然として懸値などが行はれて居ると云ふ事であるが、若し之が事實であるならば、こんな看板を出して居る丈け却つて町の信用を傷けるのである。その原因は少數のものが脱け駈けをして儲け様とすることから起る競争の結果であつて、共同一致の實の擧がらない爲である。町と商工會は常に一致して之に交通機關業者の全部及び町民は多少の不利は御互ひに耐へて全て一團となり、例へば納涼團の催しがあれば全町擧つて之に當つて、主催は町に委ねて町民は傍觀すると云ふ様な態度を採らずに共存共營を計らなければならぬ。不正な商人があらば之に充分の注意を與ふることも共同の上から必要な事である。

第三に創造性に乏しいと云ふ點に就ては琴平百十軒の土産物商土産物に就て見ても分る。何一つと

して琴平でなければ得られぬと云ふものがない。最近一刀彫などが出来、未だ琴平名物とはなつて居ないが、之等は非常に喜ぶべき事であるが、他には飴、抽べしなどを除いて殆んど他國から來たものである。其の種類二百五六十に及ぶと云ふに到つては寧ろ驚くべきものであるが、さて一つとして東京、大阪方面の人に對して珍らしいものはない。到る處から各種の品を集めたのみで雜然として並んで居る有様で、琴平獨特のものが無い。模倣は獨創に先立たずと云ふ諺の通り何んなに巧みな模倣でも結局の追従に過ぎないので何時迄立つても一步も先きんずる事は出来ない。

第四に感情に走り易いと云ふのであるが、よく新聞紙上等で町民大會等は盛に行はれて、甲論乙駁せらるゝ事を聞くが琴平町に當る例を今見出す事が出来ない。

第五に目前の小利に執着して大局に立脚せぬとの事に就ては、前記の琴平電鐵の食堂經營に反對するが如き、又正札勵行をせずに懸値をする様なものは其の例にもなるのであつて、一時的の利益のみを考へて永久の福利を思はない結果である。例へば今此所に新しい會社を起すと假定すると、初めから配當の確實なもの即ち少しも企業的の危険の無いものでなければ手を出す者が少ない。無配當が少しく續くと直ぐに解散して仕舞つて今少しく堅忍依持しやうと云ふ氣がないのである。一般に企業に對する觀念が消極的であつて、有福な人が非常に多數なのに不拘、大會社、大事業が出現しない。貯蓄は皆相當にあるが之を自ら活用せずして至て他力に委ね、自分は定期預金で僅か六分か七分の利益を有

難しと心得て居るのである。集められた資金は皆縣外に持出され貸出されて縣外の生産事業に使用され他縣を利用して居ると云ふ事になる。つまり小さな利益に安閑として大利を慮らぬと云ふ傾向はある。第六に射倖心が強いと云ふ事は琴平を中心とした仲多度一帯に小鳥が素晴らしい流行をした事に現はれて居りはせぬか。小鳥の飼養其のものは株式の投機と異つて一面から云へば必づしも排斥すべきものではなく、農家の副業として寧ろ奨励すべきである。之を飼養する動機に悪い所があるのである。小鳥を飼へば自分の樂しみになり、早朝から晩夕迄投餌其他保護に苦心して多大の勞苦を要する事であり、家族的に努力した結果の賜であるから、得た收益も湯水の様に使消されると云ふ様な事も少ないのであるが、只祖先傳來の土地を賣拂つて乾坤一擲大金を之に投じ、一握千金を夢見ると云ふ様な人も無いとは云へぬのである。爲めに養鶏などは非常に廢れて着實の風が或は乏しくなつた様にも思はれぬ事はない。

最後に時間觀念の薄い事に就ては全ての集會などに集まるものゝ間に高松には高松時間あり、琴平には琴平時間ある事は全ての人の認むる所であつて、催促を受けてから出るのを以て誇りとする事は早く廢し度いものである。旅館等の中食に二時間も待たされた例もこの項目に入れ得る。

琴平町は交通よく發達し、殊に最近琴平電鐵が高松に直通して一段の便利を加へたのであるが、今琴平町を中心として其の概況を見ると、(地圖参照)

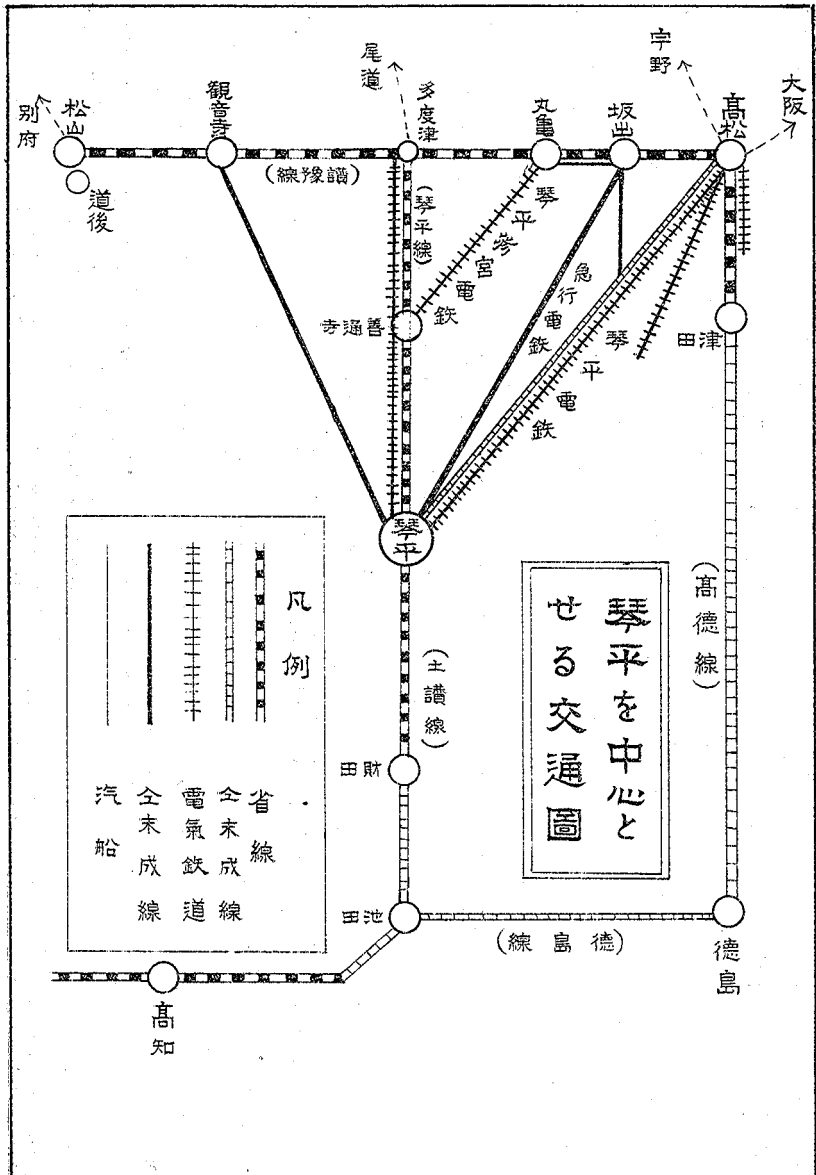
琴平線(省線)は善通寺を経て多度津で讃豫線に合し、丸龜、坂出を経て高松に通じ、更に海を渡つて宇野線に接続し、岡山で東京行き、下關行きに連絡する。一方多度津から讃豫線は西に馳つて觀音寺、西條を経て伊豫の松山に至る。

土讃線(省線) 琴平から南下して財田に至る。近き將來に延長して池田に到れば高德線に合して、阿波徳島に連絡し、一方池田から更に南下して、所謂四國縦貫鐵道が完成すれば、土佐の高知に達する事となつて琴平町は裏四國に達する重要な中心點となるのである。

琴平參宮電鐵 琴平から善通寺を経て丸龜に出で省線に接する線と、善通寺から多度津へ出て尾道行きの汽船と連絡するものとある。

琴平電鐵(琴高線) 本年三月十五日開通されたものであつて最新式の車輛を使用して居るが、高松終點の位地が現在には不便の地位にあるので省線の乗客を何の程度迄に引受け得るかは疑はれて居る。終點が高松築港迄延びれば船の客の大部分を奪ひ得る事は確かであらう。

以上は既設のものであるが他に計畫されて居るのは琴平から直路坂出に到る急行電鐵と、琴平から觀音寺に到るものである。尙他に省線固有鐵道も、最近の鐵道省發行の交通圖を見ると高松から直路



琴平へ出る豫定がある様に見受けらる。若し最後のものが實現すれば、琴平電鐵の受くる影響は甚しいものであるが、其は別問題として如此諸線が完成した後の琴平は、鐵道及鐵電の線七本の集まる處となり、他に自動車線を加へて實に四通八達、香川縣否四國の交通中心地となるのであつて、參詣客即ち所謂賽客の今より尙一層雲集する事は實に明かな事でなければならぬ。一体琴平には賽客が何の位一年に來遊するものであるか、其の數或は百萬と云はれ、或は百五十萬と唱へられ、或は二百萬と號され、探る所に苦しむのであるが、今試みに省線琴平驛に乘降せる客の數の累年比較を掲げて見る。

鐵道旅客乘降數 (琴平驛)

年	乗車人員	降車人員
大正九年	七六三、四二三	七三八、八三五
大正十年	七三六、八六六	七二二、三三五
大正十一年	八三四、二九一	七九八、四八一
大正十二年	六八三、八三〇	六七七、八三五
大正十三年	四八九、九一三	五一八、〇八一
大正十四年	四九二、八八一	五一九、七二四
大正十五年	三八六、三五六	三九四、九四四

香川縣の産業(琴平町に就いて)

事が望ましいのであつて、之に付いて各人が苦心焦慮して居る次第である。交通が発達して便利になれば來遊するものは必ず増加するであらう。殊に讃豫線の全通と同時に九州の客と共に阪神地方の人で別府に遊んだものが、道後を経て琴平に來るものは決して少くないと信ずるのである。只道後に一泊して朝同地を出發し日中琴平を見物して、夕方には高松に到る事になるから、旅客を一泊せしむるには餘程の施設を考へなければならぬ。土讃線を利用して裏四國へ向ふ人達も同様先を急ぐ結果、途中下車二三時間で去つて仕舞ふ事になるのである。

尙交通發達の結果琴平町は附近の中心市場としても有望な地位にあると思ふ。交通の中心は金融の中心となり商業の中心となつて、東は瀧の宮邊迄の綾歌郡の西南部、南は財田邊に至る仲多度郡の南部、西は三豊郡の東部一帯は琴平を中心として經濟を立てる事にする事も決して夢想ではない。差當つては農具、日用品など或は百科商店の如きを少しく大規模に經營すれば相當面白い結果を見得ると思ふ。若し此所に商業的才幹を備へ、企業的手腕を有する人があつたなら徳島、高知地方の物産の仲買をなし、本州各地の物産の配給中心としての任務を全ふする事が出来る有望な地位であると云ひ得るのであつて、必ずしも商業で立つ事が絶望なりとは云ひ得ないのである。

四

前述の如く交通發達の結果客數の増加と共に客足の早くなる事は琴平町民の等しく豫想して居る所と思ふ。九時の終列車以後更に二時間近く電車が客を高松へ運び去るのである、夜の高松は夜の琴平より賑かであるから、高松を根據地として栗林公園、屋島、琴平を見物する客が多くなる下であらう。若し然りとすれば琴平は何か客足を止める工夫をしなければならないのである。其れには琴平の人は旅客に對して親切でなければならぬ。客を満足させなければならぬ。驛前の車夫が初めての参拜客に對して十八町もあつて御歩きは無理などと云ふ様な不親切な事は止めなければならぬ。玄關口で如此不愉快な事は琴平全体に對する悪い印象を與へる事になる。一流の旅館の旅客を遇する方法は間然する處無い様に思ふが、茶代制度、室料制度などに就ては改良する點は多い事と思ふ。殊に海岸に遠い琴平は料理の調理法並びに材料に就て研究する餘地多く、魚類を避けて名産の松茸などをよく使用して此の方面にも一つの名物を作り出さん事を希望する。現在琴平の料理の風味は満足なりと云ひ得ない。扱旅客の待遇法に就ては町長初め町民一同懸命になつて居るのであつて、現に賽客歡迎會なるものがあつて町長自ら其の陣頭に立ち、有力な委員を以て組織され種々劃策をせられ、青年の音楽團を組織して旅情を慰める計畫が着々進行して居ると云ふ事である。琴平町に目下旅客の足を止むる何物があるであらうか。汽車の時間を待ち合せる爲めの三十分の時間を費すに足る散歩道もない。驛からの参宮道は殺風景極まるものである。今少しく氣持ちよく散歩し得る道にならぬであらうか。

夜なども相當明るく賑かにしたいものである。町長初め町民苦心築造の驛前の大鳥居と大宮橋と高燈籠は無慘なるかな現在では死んで居る。殊に琴平電鐵の出來た爲めに此の附近を下の公園にする折角の計畫が晝餅に歸した事は御氣の毒と云ふ他はないが、此の三つの築造物は出來る丈け早く活かせて貰いたいものである。

旅客の足を止める方法として具体的に例を擧げる事は實に難事であるが、誰しも考へつく事は、例へば有難い御神事を早朝又は夜間に舉行し、又は神秘的少女の舞を早朝取り行つて、琴平參詣者は必ず朝か夜間の御神事を拜さなければ來遊の價値が無い様な有名なものとし、又は奥山の奥の院には何人も參拜する様にする事などである。

又旅人の通有性である高所から一望したしと云ふ慾求を満足させる爲めに、神宮より更に數百尺高い所に展望台を設けケーブル登山電車を通はしめる事も出來得べき事であつて、徒らに神域を汚すものとして排すべき事ではない。又之も旅行者の共通の慾求に應ずる爲め大浴場の設備などもよく、尤も現在でもラヂウム湯とかの設備はある様であるがもつと完全なものにしたい。洋式ホテルの經營も望ましい事であつて、現在ホテルの設備の無い爲めに外國人の遊來者に不自由を感せしめて居た香川縣全體は、外國人に縣下の名所舊蹟を紹介し得る事となり、殊に高松に出來ない内に琴平に此の設備が出來れば高松へ宿るべき客をも琴平へ寄せる事が出來ると思ふ。ホテルが出來れば全ての旅客が皆

ホテルへ宿り、洋食堂が出来れば全て之に行くと思ふのは大きな間違ひで、日本式旅宿を特に好む人は無數に有存するので、結局一人でも餘計に此の町へ来て宿る人が殖へればよいのである。附近の都市にない様な立派な大劇場を作つて出し物も一流のものを撰べば、高松、丸龜邊からも観客を吸収する事は出来ると思ふ。町長から聞く所によれば維新頃までは琴平は讃岐唯一の遊興地であつて、特に金丸座の如き當時大芝居小屋があり常に千兩役者を聘して観客は宿りがけで遠くから集つたものであると云ふ。尤も當時遊興税の様な形で取立て積立てた七萬兩と云ふ莫大な資金を有して居て、缺損をしても之を行つたと云ふ事である。縣下に一つもない能樂堂の如き殊に場所柄琴平に置きたいものである。其他グラウンドもよく、團體旅行者の爲めには花柳界も必要であり、家族旅行者の爲めには町長の計畫通りに動物園も結構であり、櫻樹園、梅花園も又甚だ結構であつて、是非計畫のみでなく實現して戴きたいものと祈つて居る。又折角美事な神苑あり、公園あり、運動場あり、圖書館あり、他に求め難い自然林の勝景があるが、一更に旅人に知られず、通過されて仕舞ふのは如何にも残念の事である。旅人は何れも急いで参拜し、下山して仕舞ふのは何所かに落付いた氣分にさせない何者かがあるからだと思ふ。神社には國寶の得難いものがあると聞くけれども一更に旅人には不知である。山麓でも彼の鞆橋の如き是非一見の價値ある神橋が少しも世の人に知られて居らぬのも惜しい事である。其れには驛前附近に名所案内圖を掲げて見物の途順を示し、又は賽客案内所を設け又は簡單な印刷物

地圖を配布する位の事は實行して貰いたいと思ふ。尙賽客の通過する道路は御互ひに掃除などに念を入れて、各戸は店頭を整へ特に飲食店は清潔を心掛けて氣持ちよく通行させる事は琴平町の様な旅客によつて立たうとして居る町の人々の特に心掛くべき事であると思ふ。

五

前にも述べた如く琴平町には獨特の土産物はない。品種は二百五十種もあるが只他方で出来るものに金比羅宮の印を入れたものに過ぎない。田舎者相手の玩具の様なもの許りで仲には金刀比羅と何のゆかりもないものが多い。琴平は雨が多いから飴が名物である。由緒ある五軒の露店も面白ければ何となく清潔とは云はれぬ様である。別府の竹細工、熱海の椿油と云ふ様なしつかりした土産を欲しいものと思ふ。彫抜品もあるが琴平名物と云ふ事は出来ない。幸ひ香川縣人は手先が器用であり美術の趣味豊富であるとの事であるから、何か美術的のものを造り出して貰ひたいものである。都會の人に珍らしい實用品が欲しいものと思ふ。土産品の購入には信用組合があつて共同購入の利益を擧げて居るとの事であるが、販賣方面にも共同して貰ひたいものである。正札販賣、又は共同販賣所、或は驛前へ物産陳列所の經營と同時に食堂の經營の如きを土産物商同業組合などが計畫したら何んなものであらうか。町長の計畫には縣商品館の分館を驛前に立てたいとの事、之も大いに賛成すべき事であ

つて栗林公園にあるよりも必ず有効であると信じる。商品陳列の方法なども考慮する餘地は多い模様である。

六

讃岐の金刀比羅は實に有名である。日本全國のみならず遠く米國にも支社は置かれてあり、在外日本人の間にも信仰厚いものである。併し琴平に神社があるのみであつて、風景のよい事を唱へる人は全くない。あの雨氣を含んだ琴平山を麓から眺めた所は全く他に求められぬ絶景である。運動場のある公園も實に美事なものであるが、少しも世間に知られて居らぬ、宣傳が足らぬからである。折角の夏期の催しである「樂園の琴平」も一更我々高松に住居するものすらも誘ふに足る宣傳が行はれない。如此催しは里人の娛樂に終らしめてはならぬ。又善通寺も弘法大師の御誕生地であるが、一更東京大阪の人達には知られて居らぬ様に思ふ。誠に惜しい事である。善通寺町と共同して宣傳するのも一策である。又國有鐵道と琴平電鐵と屋島遊覽電車と協定して巡回遊覽切符を發行し栗林公園、屋島、琴平、善通寺と便利に順序よく見巡り得る様になる事も望ましい事である。香川縣全體の共同販賣などの爲め、大阪京都邊で物産の販賣に當つて、抽籤によつて讃岐見物客を當方の費用で招待する様な方法もある。

要するに琴平町否香川縣各地の人達が、一心同體になつて旅客の招待に努むべきであつて、東京、關西方面へは讚岐見物に面白く、容易であり、交通の至便な事を宣傳し、團體を勧誘し、一方別府からの歸途道後を経て、必ず琴平並に高松地方の遊覽を試みさせる様な方法を取りたいものである。其の宣傳の方法は廣く町民一般の共に考へなければならぬ事であつて當事者のみに委すのは採らぬ所である。ポスターの宣傳、新聞の廣告、案内記の作成なども重要な事である。名士の來遊毎に其の意見を聞き、或は退去した後に名士に向つて琴平町に對する感想などを問合せる事も一方法と考へられるので、問合せる事自身が多少の宣傳となると共に、琴平町の長所短所の指摘を受けて長を助け、短を捨つる事を得ると思ふ。最近の松山の産業博覽會、來年の高松に於ける全國産業博覽會にも是非宣傳方面に鮮かな活動をして戴き度いと思ふ。琴平町は商工業下立つ事は出來ぬとは決して思はぬ。永い間當地方で行はれて來た代金年二期拂の習慣や、二ヶ月拂更に四ヶ月拂の風習等が改良せられ、企業の指導者があれば立派に商業都市に立つ事が出來ると信じるのであるが、差當つての目標としては遊覽地として立つ他はあるまいと思ふ。古い諺ではあるが天の時は地の利に若かず、地の利は人の和に若かず、地の利は充分享けて居る琴平は、幸ひ名町長も上にあり、町全體よく協力一致町勢の發展を期すれば、同町の將來は實に多望であると信じて此の稿を終へる次第である。(一九二七・三・二〇)